五省会ニュース

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能正一郎

五省
一 至誠に悖るなかりしか
一 言行に恥ずるなかりしか
一 気力に欠くるなかりしか
一 努力に憾みなかりしか
一 不精に亘るなかりしか

# 地域医療チームを強化
## ～レクリエーション大会も～

## 愛される総合施設を
### 三月二十一日　開院二十九周年記念式

五省会西能病院は、三月二十一日、五階ホールで開院二十九周年記念式を挙行して二十一人の永年勤続者を表彰、西能竑院長は「機能の向上と機動力の強化を目標に、この一年を前進の年にしたい」と挨拶―。昭和三十七年三月の開院から心の通う医療に取り組んできた。これからも、健康、福祉の分野を加えた地域に根づいた医療を積極的にすすめていく。とくに高齢化社会を迎えて老人福祉が重要になってきた。これらの点を柱にして地域の皆さんに愛される総合医療施設として健康づくりに努力を重ねていく方針だ。

### 在宅看護の活性化
#### 出向く健康教室

地域医療（健康、福祉を含む）を続けている、院長直属の地域医療チームが三月一日から看護部の所属になった。

これは、強力体制によって、さらにきめ細い活動の充実をはかるもので、これまで通り、入浴車サービス、在宅看護、健康教室などを続けていくほか、地域とのレクリエーション大会を計画している。

とくに在宅看護はリハビリメニューを立案し、自立への援助を家族と共に手助けする。

地域に出向く健康教室は、公民館などを利用して、講演のほか、健康診断、健康相談、栄養指導も取り入れ、好評のリズム体操でからだをほぐすことにしている。

レクリエーションは、町内会や老人会を主体にして「地域とのふれあい」を計画している。

春（花見）夏（納涼）秋（紅葉狩り）冬（雪見）。山川や海辺を散さくして、バーベキューを、温泉につかって雪見を。歌や踊りもでてくる。

もう一つは、老人会や婦人会に呼びかけてゲートボール大会だ。

### 機能と機動力の向上
#### 西能院長の挨拶

開院二十九周年を迎え、皆様とともにお祝い申し上げます。

数多くの患者さんの御利用と、職員諸君の御努力によって、また一歳年を重ねました。しかし医療環境は、年々厳しくなっております。

年頭に申しましたが、機能の向上と機動力の強化を目標に、この一年間を前進の年とし、来るべき三十周年を盛大に祝いたいと思います。一層の御協力をお願い致します。

### さわやかな汗を

山本看護部長は「健康づくりは心とからだが一体になることです。仲間とのふれあいが大切です。からだを動かして、さわやかな汗を流しましょう」といっている。

このほか、病院として患者友の会の結成、近隣医療機関及び教育機関との連けいを考えている。

### 永年勤続表彰者

▽二十五年（三人）井上千恵子、安川みどり、山口明江

▽二十年（六人）広長百合子、鎧政行、田中行久、金谷智恵子、二口雅子、飛田勉

▽十五年（二人）古井良洋、木下文雄

▽十年（三人）才木静香、松永幸恵、大島佐登美

▽五年（七人）開沢真由美、長谷川恵子、出戸春美、石黒芳美、光里専蔵、金子昭典、高畑芳信

## 生き返って
### 西能正一郎

毎年、春分の三月二十一日は西能病院の誕生日としてお祝いをして来ました。わずか十床の診療所として発足した西能整形外科医院が今や総ベッド数百八十五床、内科・整形外科そしてリハビリテーションも備えた病院として大化けに化けて、現在百六十人の職員と共に生活させていただいております。今年は二十九回目というわけであります。その間色々と苦労もなかったとは言えませんが、自分の息子を育てるような気持でこの病院とつきあって来ましたので、苦しかったことはみんな忘れて今日までにいただいた人と人との触れあいの喜びだけが胸の中で息づいております。皆様方のあたたかいご支援にありためて心から御礼申し上げます。

例年ならここで二十九年間の歩みと、これからの抱負などについて書いて来たのですが、昨年秋、私は路上で車にはねられまして死んでも当然というほどの怪我をしました。が、幸運と担当の先生方のお力によって再び生き返らせてもらいました。その折、ご心配いただきました多くの皆様方に、あらためてあつく御礼を申し上げます。実は生き返ったお陰で今まで知らなかったことも沢山教わりました。

平成二年十月十四日の朝、私は富山の旧制富山高等学校の全国総会に向かって、前夜祭のあった五ケ山から車を急がせておりました。途中で用事を思い出し、電話をかけに降りて車にもどる時の受傷であります。間もなく救急車で市立砺波総合病院に収容されましたが、受傷の瞬間からその後四週間近く、私にはあったことが全く記憶されていない状態でありました。

その病院に一カ月間おせわになりましたが、記憶が回復してから付き添いのポツポツ語ることを聞いてみますと、記憶のない時期とはいえ治療して下さる先生方にまことに失礼な雑言をあびせていたことを知りました。大体意識がもどって外科の主治医から「西能さん助かったよ」と宣告されたときに、「齢ももう六十を過ぎて人生の勝負も済んだ。今さら助けてもらっても何が出来るというんだ」と思ったほどですから、夢中のときには何をしていたか言っていたか想像出来るというものです。

## "命"の有難さをしみじみと…
### 医師は目の前の病気との戦いに明け暮れ

その時には、多くの先生にきちんと御礼を申し上げるつもりで病院に参りました。どの先生にお逢いしても私の気持を受け取っていただけるお時間がみつからず、しょんぼりと帰って来ました。それは夫々の先生方は目の前にある病気と懸命に戦っておられ、過ぎ去った病人の相手になっている暇がないということだとわかりました。

私も今日までそうしてきただろうと、医師という仕事の淋しさを感じました。

二、三日経って命があるということがどんなにありがたいかをしみじみと感じた次第です。ろくに先生方にお礼も言えないで退院して来たことがずっと気がかりになっていて、三週間後に診せに来るように言われていた

## あすなろ

「われ専らにして一となり敵、分かれて十となならば、これ十をもってその一を攻むるなり」という中国「孫子」の言葉がある。「孫子」といえば兵法書。先の言葉は文語訳だから難しそうだが、そう難しい内容ではない▼敵と味方が同数で戦う場合、味方の兵力を一か所に集中し、敵の兵力を十か所に分散させればこちらは敵の十倍の兵力で攻撃するのだから必ず勝てるーということだ▼今度の湾岸戦争の地上戦で、多籍国軍の進撃は、上陸海兵隊を含めていくつもルートに分かれていた。しかし、これでイラク軍の兵力を分散させ、最強といわれた防衛隊を抑え込む形でクウェート市包囲の一点にしぼった作戦だった。このやり方は、戦いだけでなく人生の処し方においても重要なことを教えている▼つまり、重大なことをするに当たって、あれも大事、これも大事と迷い、力をいくつにも分散しているとアブハチとらずになる。大切な一つに全力を集中し他は切り捨てる決断が大切という教えだ▼その意味で、「孫子」はいま、兵法書としてより社会での身の処し方、経営の心構まえの書として見直されている。それにしても二千五百年も前の兵法書である「孫子」が現代にも通じるということは、人類の不変の真理を見事についているからであろう。古代中国人の底知れぬ力と英知を感じる。

## 西能病院　二十九年の歩み

昭和37年3月　富山市星井町40番地に西能整形外科医院を開設（収容施設10床）
38年12月　富山市五福1130に西能整形外科病院完成、開設（18室47床）
39年5月　救急病院に認定
40年4月　第一期増築工事完成、開設（27室77床）
43年8月　第二期工事完成、開設（34室116床）
44年7月　富山大橋橋脚沈下で地鉄ビルに診療所開設
49年7月　外来患者累計50万人を突破
51年12月　入院患者累計50万人を突破
53年4月　形成外科クリニック開設（北里大学市田先生）
54年5月　内科外来の診療開始
54年10月　「医療法人財団五省会」の認可
56年3月　「特定医療法人」認可
58年3月　第三期増改築工事完了、病床百八十五床
58年4月　内科病棟を新設
58年10月　集団給食部門で厚生大臣賞
59年5月　西能院長に厚生大臣賞、日本病院会で病院事業の発展向上に努めた功績
59年9月　外来患者累計百万人突破
60年9月　地域住民のための健康教室を病院五階ホールで開催、毎月一回
61年7月　西能院長が厚生省の医療審議会の委員に選出
61年9月　入院患者累計百万人を突破
61年12月　基準看護特二類承認。
62年4月　地域医療チームを編成、在宅診療活動を開始
62年4月　スポーツ外来開設
63年4月　日曜、祝日を返上した年中無休の外来診療体制を開始
63年4月　入浴専用車で寝たきり老人の入浴サービスを開始
63年7月　西能竑副院長が二代目院長に就任
平成元年2月　五省会広報委員会を設置
平成元年2月　三階慢性病棟が毎週一回、歌の会、折り紙の会、将棋の会を開催
平成元年4月　大山馨氏（前県立中央病院内科部長）が内科部長に就任
平成2年2月～4月　広報委員会が地域医療などについて住民の意識調査
平成2年7月　能海勲氏（前井波厚生病院院長）が画像センター長に就任
平成2年8月　MRI及びCTを備え五省会画像センターが稼動
平成2年12月　神通川以西の二つの新コースに通院バスを運行

## 健康法の問題 (61)

大山　肇

### 脳死論について

# 内科臨床医からのひと言

生体肝移植手術が行われて以来、脳死論賛成、反対の意見が大きく報道されています。私は長く内科の診療に従事してきましたが、その中で最も苦しく嫌だったことは「死亡の宣告」でした。

処で私はかなり多くの死亡診断書をかいて来ました。

その分、嫌な経験も随分とあります。その結果「死亡の宣告」を家族に知らせる時、「これだけ看て貰ったんだから仕方がない」と納得して貰う（家族の情の）ために、患者の様子が悪くなると、日中は度々病室を訪れ、夜は雨の中でも吹雪の時でも何か連絡があります、とび起きて病院へ行きました。

脳死の人を看取ったこともあります。十年以上も前になりますが、家族一同の見守る中、呼吸維持装置をはずしてからモニターの心電図が最後の搏動を終えるまでの三十分（普通は十五～二十分）間は、重苦しい雰囲気の中で状態の変化を説明する会話はぎこちなく、口は渇き死亡の告知までは苦しい家族への儀式であったことを忘れません。

三十年以上前になりますが、私はニューヨークの市立病院にレジデントという身分で内科勤務をしておりました。受け持ちの患者がもう「薬石効なし」と判断しますと、カルテに「重態になった」と記入します。すると、その時から牧師さんが頻繁に病室を訪れて病人の魂の救済をなさいます。医者は主役の座を譲ることになります。

あと数時間位で「亡くなる」と思った時でも、勤務時間が終わると、当直に任せて、後ろ髪をひかれることなく帰ることができました。又勤務時間中に臨終を迎えた時は死亡に立ち会い、カルテにしっかり記録するだけの負担で済みました。

ここに日本とアメリカにおける死生観の明らかな違いがみられます。日本では亡骸に取り縋って悲しむ姿がみられますが、この情の世界が臓器提供者の出てこない背景であると思います。アメリカにおけるキリスト教文化の中では魂のなくなった体は単なる死体であり、人の役に立つなら提供しますということが割合自然に行われているように思います。

処で人間の体は六十兆個の細胞から成りたち、あるものは脳、あるものは肝、腎などと、それぞれの役割がきめられています。又これ等の臓器がうまく機能する様に細胞液、血液、淋巴液、消化液などの液体環境が出来ております。

体の総ての細胞はその人特有のDNA（遺伝子情報）を持っており、その一つずつの細胞の働きがそこに打ち刻まれていて、これを自然の摂理、ホメオステジスと呼んでいます。

この様に安定した状態で生きている体に、他人のDNAを持った臓器が入れられますと（移植）当然体は拒絶反応を起こします。拒絶反応との戦いが移植医学の宿命で、よい免疫抑制剤が出来たからといって簡単に解決する問題ではありません。移植がうまくいくかいかないかの予見は殆ど出来ないことです。脳死の判定基準が今一つ不十分な上、脳死臓器移植をうけ入れる社会の仕組もとのっていない今、私は脳死移植を奨める勇気はありません。

（西能病院・内科部長）

## 病床日記

広瀬　利二（七二）

大沢野町笹津

**再起にむかって**

一月二十四日、牛岳スキー場で左大腿骨を骨折救急車で入院した。院長はじめ職員の手厚い看護で、日毎によくなり、リハビリができるようになった。けがのときは不仕合せと思ったが、いまは幸福の二文字に変ってきたと考えている。再起にむかってがんばる。

## 看護日記

名村　実香

看護部

**相手の立場で**

看護婦になって五年目。昨年、つわりで入院して患者の経験をし、そして相手の立場になって物ごとを考えることの大切さを痛感した。健康で看護に励めることに感謝し、人との出会いを大切に、自らの成長を心がけていこうと、努力している毎日である。

## 「シープ」オープン

# 介護用品を展示販売　二階

## 一階は売店と喫茶店

介護用品を展示販売するヘルスケアショップ「シープ」（鉄筋二階建延百九十八平方㍍）が二月一日に病院玄関横でオープンした。

二階に在宅介護に必要な品物や設備が陳列してあり、係員が説明し、貸付の相談にも応ずる。また介護保険、各種保険や家屋改造相談などの関連サービスも行っている。

主な取り扱い品はつぎのとおり。ベッド、室内搬送機器、車椅子、松葉杖、ステッキ、シューズなどの移動用品、病衣、オムツ関係品、床ずれ防止用具など臥床用品、洗剤、薬剤、ペーパーなど関連用品。「家庭での療養を」をよりリッチにするため自由に利用してほしい」といっている。

なお、一階で売店と喫茶"シープ"を開いている。

営業時間は、午前八時半から午後五時まで。日曜、祝日は休み。

正面からの全景

一階の売店と喫茶店

二階の介護用品展示販売場

## 私たちの環境は？②

# 環境問題はエネルギー問題

## ソフト面の価値づけで貢献を

### 対談

地球の温暖化
フロンガス、酸性雨……
いま地球規模の環境問題が問われている

富山医科薬科大学保健医学教授　鏡森　定信氏

財団五省会西能病院長　西能　竑氏

**鏡森**　原子力です。

**西能**　それで、ちょうど飛行機が落ちるから私は乗りません。（笑い）

**鏡森**　だから、日本は経済のスピードをどんなふうにして調整しているかということでしょうね。これは老人医療や高齢化社会の論理と裏腹なんですよ。老人を大事にする社会をつくるためにどうしたらよいのかという、そこらあたりまで話がひろがっていくことになるわけです。

まあ私は、日本は経済発展のスピードダウンをしなければいかんだろうと思います。

### 物を大事に　節約する英国人

**西能**　私たち個人個人は、エネルギーを大切にしましょうといわれてもなかなか実行が伴わないところがあるんですが。それと個人消費よりも製造工場などのエネルギー消費量は抜群だろうと思いますけれども……。

**鏡森**　まあどうしていいかということは非常にむずかしい。

ただ、私はイギリスが好きで、イギリスのことをいいますけれども、あのイギリスをどう見るかという問題はいろいろあるんだけれど、イギリスの人たちは物を大事にしますね。

一方、私たち日本人は新しい製品ができたから買うとか、欲しいから探して買うとかというよりも、次々に新しい製品ができて買わされているという感じでしょう。そこのところを日本人はちょっと考えないといけないと思います。

日本だけにいるとね、テレビとか車とかはメーカーが次々にモデルチェンジをして、自分たちがその中から欲しいものを買うという形をとっていますけれど、実は逆なわけで、われわれが欲しいものを手に入れるために作らせているというのが本当なわけです。

だから、次はこれが欲しいからこういうものを探していくということじゃなくて、これがでたから買わなければいけないというふうに……。さっきいったように経済のスピード、効率を保つためには早い回転がどうしても必要なんですね、そういうところをボランティアというか、要するに節約ですね。

イギリス人は、まず物を大事にしますよ。それから家の中に物がありませんね。だから日本のように物を買わされているという感じがしました。

ところが、日本へ帰ってくるともう……。





## ふれあい　①

すべてのことに心の通う対話が大切で、「おまかせします」（信頼）「お役に立たせてもらいます」（奉仕）は良い医療の原点であります。西能病院の医療システムから、〝ふれあい〟の姿をとらえてみました。

洗髪に気持ちよさそうなツヤさん

酒井　ツヤさん（92）

富山市五福二区

耳は遠いが、しゃべる方は一人前のツヤさん。入浴車のスタッフ四人が訪れ「おばあちゃん元気かいね」と声をかけると、ニコニコうなずきながら「まっとりました。風呂に入れてもらえるのが、何より嬉しいですちゃ」の元気な声が返ってきました。この日は五十六回目の入浴でした。

動くと腰が痛いので、二月十日からベッドで寝たきりになりました。隣の部屋に浴槽を運び、三十分でお湯が湧きました。

この間、血圧、脈拍、体温をはかります。

三人がかりで、さあ入浴。まず洗髪です。お湯にたっぷりつかって、からだを洗ってもらい、仕上げはシャワー。ベッドにもどったツヤさんは目を細めながら「気持ちいいね、ハハハ…」と、ご機嫌です。

### 何よりも楽しみの入浴車

## "気持ちいいね、ハハハ…"

ツヤさんの楽しみといえば、入浴のほかはテレビ、それから曾孫の顔をみることです。テレビは連想ゲームと相撲のファンです。曾孫は十四人（内曾孫が三人）で、正月のお年玉は一万円。老令年金をしっかりためています。小学校と保育所へ行く曾孫二人がベッドの側にきて「おばあちゃん、いってきます」と、大声をはりあげると、「いってらっしゃい、けがしないように、けんかしないように…」と、しっかり注意します。

日常生活といえば、テレビを見ていることが一番多く、気がむくと毛編みものに熱中します。新聞も読みます。昼夜の区別がなく、好きなときに目をつむっています。でも「戦争ちゃ、必要のないもんや」のするどい目をもっております。

長男の一夫さん（八〇）と妻昌子さん（八五）が面倒をみています。昌子さんは「自宅の風呂に恐らくて到底入れることはできません、おばあちゃんも恐らしいといっとります。入浴車のおかげで、どんなに助かりますやらす。本当にありがたいことです。おばあちゃんはいつも入浴車のくるのを首を長くしてまっとりました。」と深々と頭を下げました。

×　×

スタッフが「大事にしとられ、またくるちゃ」と、お別れをいうと、おばあちゃんは「気の毒なご苦労さんでした。またね」と、手を小さく振りつづけていました。

## 長生きのすすめ

### 頭川　徹　治さん（七七）

富山市五福九区

広いグランドで球拾いの頭川さん

陸から水にかけてスポーツ万能の頭川さんは、健康の条件として「運動栄養・休養」の三原則をあげた。

第一は「運動不足にならない。自分のからだや年にあわせて適宜に動くこと」である。

頭川さんは、運動不足にならないよう日常生活の中で幅広く取り入れている。犬をつれての散歩、ゴルフ、畑仕事、花づくり、老人会の軽スポーツ、そして健康管理を教えている富山女子短大で一緒になってテニスやバレーボールに汗を流す。

ゴルフは十年前から自宅に隣接の富大グラウンドではじめた。朝か夕方に一時間かけて五十球を打つ。「球拾いに歩くのも爽やかで、いい運動になる。それに、打ったさい遠くまで球を追うのが目のトレーニングになっている」。

## 運動不足は禁物

### 健康づくりは心身一体で

全身的な運動では水泳が一番、冬場は家族ぐるみのスキーがよいという。

このほか五福壮寿会に健康のためのダンス教室が誕生した。理事をつとめる頭川さんたちの後押しによるものだ。「ダンスをやると、曲った腰がピンとなる」を耳にしたのがきっかけだ。二月五日、五福公民館の初回には八十人が参加、女性が三分の二を占めた。「音楽と、からだの一体感がよかった。まちどおしい」の声が聞かれた。

五十年間も富大や富山女子短大で保健体育や健康管理を教えているベテランは「健康づくりはからだと共に心を鍛えることだ。つまり心身一体である。年をとってくると、一人ではなかなか運動はできないものだ、ゲートボールなどのような社会性を帯びた和やかな雰囲気づくりが大切だ」と締めくくった。

ところで頭川さんは晩酌をかかさない。といっても、盃に二杯のちょっぴり酒である。「血液の循環をよくするため薬のつもりで…。」

## 老人福祉の手引き

# 介護に工夫を

## 制度をうまく利用

### はじめに

高齢化社会到来についての認識が広がる中で、現実に寝たきりの老人の介護を家庭で行っている方が増えてきました。病院にいるより、家庭の方が老人にとって、どんなに幸せなことでしょう。

ここでは、このような方々のために用意されている福祉の一部を紹介いたします。

家庭奉仕員の派遣、日用生活用具の給付及び貸与、紙おむつの支給、寝具の乾燥・消毒、理髪サービス、給食サービス、訪問看護など。

このほか、施設を利用するサービス（ディサービス、ショートステイ、ディホームなど）があります。

これらの福祉には、市役所や役場の老人福祉担当課または社会福祉協議会が相談に応じてくれます。

介護の大変さを一人で背負うのではなく、制度をうまく利用して、介護が長続きできるように工夫してみるのも、一つの方法ではないでしょうか。

（医療ソーシャルワーカー・今井勝憲）

## わたしはこう思う　①

### ソフト面に弱い日本

**西能**　そうですね、ウチの入院患者さんたちはね、ちょっと長くいるとベッドの回りは物でいっぱいになるんですね。確かに物が豊富なんでしょうけど、やっぱり気軽に買いすぎるんですかね。

**鏡森**　まあそれはいい面では日本の経済発展を支えてきたんでしょうけどね。国内の需要をどんどんつくってくれたんだから……。

でも、大体日本人が漠然と感じているのは、物質的にはもう飽和状態に達しているんじゃないかかはまさに少なく、保健婦すら十分にいないという。そういうところでお金を動かす知恵ですよ。ソフト面です。日本はハードの国なんですよ。物はあるんです。ソフトのところがない。これは決してもそれをやる前に特別養護老人ホームが少ない。ディサービス施設も不十分。訪問看護婦なんかはまさに少なく、保健婦すら十分にいないという。そういうところでお金を動かす知恵ですよ。ソフト面です。日本はハードの国なんですよ。物はあるんです。ソフトのところがない。これは決ですよ。それは教育なんですよ。

「世界的な動向として原子力発電は…」と西能院長（右）。
「もうエネルギー供給のメーンは原子力発電、ただ日本は…」と鏡森教授。

### 新しい価値で　世界に貢献を

**鏡森**　だけどね、一つだけ成功したのがあるんですよ。それは教育なんです。世界に誇るべきソフトの投資です。田舎の隅々にまで学校をつくって先生も準備して、国民が どこにいてもそれ相応の知的レベルを保てるということになっているのでしょう。

そのために国力もついてきたし、自分で物を考えたり情報も活用できる。それが日本の産業を支えたことは間違いない。これと同じように僕がさっきいったようにいいものをいいうちに作れば、たとえば福祉というところでも人を動かす、金を動かす。そういう転換がもしできなければ、これは早晩、次の物をつくっている国に追い抜かれます。韓国とかシンガポール、中国にね。

だから、日本としては次の新しいところで世界的な貢献をしていく……。

**西能**　それがソフト面ということですね。

**鏡森**　そうです。橋をつくった。車も随分つくった。本家の中にも一応いろんなものがある。

今度は教育で成功したようにね。もう一つは、どこでも安心したケアが受けれると、みんなが生きていてよかったということになるでしょう。そういうところに価値を置いてお金を回す……。

**西能**　そういう意味では、東南アジアなどひどいところもありますが、日本は医療の中の福祉という点では発展途上国ですか。

**鏡森**　そうじゃないですか。ま、環境問題からズレましたけど、環境問題はエネルギー問題で、エネルギー問題を考えるとき、いまの物質中心主義をつづけていかざるをえないとしても、それに代わるような価値をもったところでお金を回していくことを考えないと、根本的な解決になりません。

（つづく）

## わたしはこう思う

# 新しい息吹きを ⑫

## リハビリテーション

リハビリテーションは訓練室、物療室、水治療室の三つで構成されており、総勢十人（理学療法士四人、物療士四人ほか二人）が患者さんの身体的、情緒的、社会的潜在能力を引きだすため、忍耐と根気の努力を続けております。

今回は訓練室を紹介いたします。勤務者は若いPT三人と私の計四人で運動療法を中心に理学療法をおこなっています。

訓練室のリハビリ風景

患者さんは高令者の方が多く、疾患別にみますと、脳血管障害後遺症、リウマチ、骨粗鬆症と圧迫骨折、頚髄損傷などの慢性疾患が主体であります。なかなか完全治癒とはいかず、障害が残ってしまうことが多々あります。

治療だけの医療のみを考えますと、患者さんも、そして治療する私たちも、はがゆく、悩み、苦しみます。とくに患者さんの悩みの方が大きいです。

ですから、私たちは、患者さんが自分の障害をすなおに受けいれ、訓練を励みにして生きていかれることを願っております。福祉の中の医療のことも考慮に入れて、少しでもお役にたちたいと頑張っています。

また、頚椎及び腰椎の手術をし、社会復帰を目指して訓練に励んでおられる患者さんもおられます。

そこで、新しい試みとして腰痛の評価を行うことにしました。

今回は、一番ポピュラーにおこなわれているラブ法（腰椎椎間板ヘルニア）の手術前、手術後、退院時の評価のみにしぼって、ただいま評価表を作成しています。

皆さまの御協力と御指導のほどお願いいたします。

（リハビリテーション課長・荒井紀夫）

### 患者さんと共に悩み苦しむ

## 腰痛評価の新しい試みを

# 病院だより

## 一月

**福祉や健康に力を**

**四日**＝五階ホールで仕事始め。理事長は「これからは医療にこだわらず福祉や健康な人のサービスに力を入れていくことが大事だ」また院長は「地域に根づいた医療、患者本位の医療、活力ある医療活動を目指していく」と年頭所感。

**八日**＝小会議室で誕生会、該当者十四人。

**新成人四人に記念品**

**十五日**＝新成人の杉本春美さん、二塚はるかさん、前田紀子さん、松井晶代さんに、院長から記念品を贈呈。

**十九日～二十二日**＝冬期県民体育大会（牛岳スキー場）に医師と看護婦の救護班。

**二十日**＝五階ホールで第二回院内研究発表会。

**二十六日**＝五階ホールで健康教室。富田内科医師が「脳卒中について」

## 二月

**一日**＝ヘルスケアショップ「シーブ」が開店。

**八日、二十一日、二十六日**＝看護協会主催の健康ふれあい教室（看護研修センター）で山本看護部長が「健康づくりとふれあいリズム体操」を指導。

**十二日**＝小会議室で誕生会、該当者十八人。

**十七日**＝互助会が牛岳スキー場で、職員と家族の親睦スキー。

**二十三日**＝かたかご保育園で院外健康教室。大山内科部長が「脳死について」。

**二十八日**＝看護協会主催の看護力再開発講習会（西能病院五階小会議室）で山本看護部長が「最近の医療機器及びその取り扱い）について講義。

## 三月

**十日～十五日**＝藤園女子高校の沖縄方面研修旅行に救護班。

**十二日**＝小会議室で誕生会、該当者二十三人。

**三十日**＝下村婦人会総会（下村改善センター）で山本部長が講演、「健やかに楽しく生きる」。

# 十六演題を発表

## 第二回院内研究発表会

第二回院内研究発表会は一月二十日、五階ホールで開かれた。西能院長が「本年は、病院の目標として、病院の機能向上と機動力の強化をあげた。この研究発表会が、病院の機能向上の基礎となり、病院の定着した行事となっていくことを念願する」と挨拶した。十六演題と発表者はつぎのとおり。

（敬称略）

「医薬分業について」用水とも子（本部会議）「注射薬の配合について」杉村洋（薬剤部）「当院におけるリウマチ患者の貧血について―その現状―」刑部美和子（検査室）「MRIとCTのカメラの相違による黒化度の変化について」可部谷剛（レントゲン室）「持続的他動運動の使用経験」飛田勉（リハビリテーション）「外来における栄養指導について」二口雅子（栄養部）「医事業務の平準化について」河辺信子（医事課）「看護研究活性化へ向けて」原田洋美（看護部看護研究委員会）「より良い外来患者サービスの充実を目指して―約束票を活用しての一考察」永井清美（看護部整形外科外来）「高齢者への服薬指導―内服薬の見本帳を作成しての試み―」菊崎信子（看護部内科外来）「術前オリエンテーションの充実―床上排泄の援助―」原田五月（看護部二階東チーム）「看護婦と腰痛のかかわり」講神直美（看護部二階西チーム）「個別性のあるターミナルケアを目指して―四症例の経験から」吉田早苗（看護部三階東チーム）「老人看護のあり方を考える―歌の会を通して―」藤田真由美（看護部三階西チーム）「腰椎手術後の患者病衣の一工夫」福岡恵美（看護部四階チーム）「音楽（BGM）導入にあたり患者の心理状態の把握―アンケート結果より第一報―」矢後幸枝（看護部中材・手術室）。

## 栄養メモ

### 骨の老化現象の予防

## 一日 300ccの牛乳を

骨粗鬆症は、一般に骨の老化現象と見られています。

この予防には骨の構成成分であるカルシウムを充分に摂ることが大切です。

国民栄養調査によりますと、カルシウムのみが所要量に達していません。

そこで、カルシウムを多く含む食品を献立に毎日取り入れるようにしましょう。

乳、乳製品、わかさぎ、ちりめんじゃこ、小松菜ひじきなどですが、乳製品に含まれるカルシュームは吸収がよいので、牛乳は一日三百cc位は摂りましょう。

（井上千恵子栄養士）

# 診療体制のご案内

## 休日診療

（日曜日・祝日）

午前8時30分～午後5時

- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

## 平日診療

（月曜日～土曜日）

**整形外科**
午前 8：30～12：00
午後 4：00～7：00

**スポーツ外来**
火・土曜日 午後 4：00～7：00

**内科**
午前 9：00～12：00
午後 3：00～5：00
（火・金曜日は7：00）

**神経内科外来**
木曜日 午後 2：00～5：00

**在宅看護・診療**
木・金曜日 午後 1：30～4：00

**リハビリテーション科**
午前 8：30～12：00
午後 1：00～7：00

**泌尿器科外来**
土曜日 午後 1：30～5：00

**栄養指導**（糖尿病 ウエイト・コントロール）
月曜日～土曜日 午前 10：00～11：00

**救急出動OK**

もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上がります。常時2台待機しています。

## 通院バスのご案内

月曜～土曜　午前運行
（日曜、祝日は休み）
○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

**①富山駅・西町コース**

丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内→新富町→富山駅→桜橋通り→西町→旅籠町→丸の内

**②婦中・長沢・金屋方面**

金屋→西能病院→神明→羽根→鵜坂農協→速星駅→古里郵便局→平岡→友坂口→金屋

**③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面**

畑中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田→女子短大→呉羽駅→北代→石坂→畑中